



# 食にかかわる専門家を支える NPO法人 食生態学実践フォーラム

## ■第14回総会報告

日本女子大学新泉山館（東京都文京区）

2017.5.28

5月28日(日)13時より、40名(委任状を含む)の参加を得て、日本女子大学新泉山館において第14回総会が開催されました。開催にあたり、足立理事長から以下の挨拶がありました。「食育の理念や、一人ひとりの行動変容にキーポイントを置き実践してきた当フォーラムにおける、NPO設立前からのひだ深い活動が、『食生態学—実践と研究10号記念号』となり発刊されました。フォーラム会員が、それぞれの場で社会貢献につながる活動をしている様子が把握され、フォーラムに対する社会の期待が多く寄せられています。今日の研修もその現れの一つですが、今後、的を絞った活動の必要性も感じています。また、理事会では、多くの方がフォーラムの活動に参加できるようにと多様な提案をいただきました」。

2016年度事業報告・決算報告、2017年度事業計画・予算等について審議され、原案どおり承認されました。なお、2017～2018年度役員は以下のとおりです(理事長および副理事長は、理事互選でその場で選出されました)。足立己幸(理事長)、針谷順子(副理事長)、渥美雅也・薄金孝子・尾岸恵三子・越智直実・香川明夫・高橋千恵子・高増雅子・武見ゆかり・原田のり子・東あかね・平岩扶巳代・平本福子・吉岡有紀子(以上、理事、五十音順)、田中久子・野渡祥子(以上、監事)。

高橋千恵子(フォーラム理事)

## ■総会研修会報告

### 当事者主体(寄り添った)の支援とは? 今、なぜ必要か?

#### 「子ども食堂」、障がい者や高齢者等の自立的な食支援の基本について考える

日本女子大学新泉山館（東京都文京区）

2017.5.28

総会后、同会場にて、14時から総会研修会が行われました。参加者は、重度重複障がい者の「学習会サロン」の当事者5名と家族や支援者の方々14名を含む、合計116名でした。

基調講演は、湯浅誠氏(法政大学現代福祉学部教授、社会活動家)による「当事者主体(寄り添った)の支援とは? 今、なぜ必要か?」です。「寄り添った支援」とは、「①支援者と当事者の関係(場)をデザインすること。②自分を問うこと」とのことでした。ご自身がこれまでに関わってこられた路上生活者や、震災等の被災者との多様な関わり方を具体的に示しながら、論点を明確に整理して話してくださいました。研修会等での学習者と支援者の関係もまったく同じであることに気づかさ

れ、また、自分自身(支援者)の成長(学び)が寄り添った支援の基本になることから、研鑽の重要性についても改めて気づかせていただきました。

足立己幸理事長を座長としたシンポジウムでは、里見英則氏(「学習会サロン」当事者代表。指談)と、平岩扶巳代氏(「あしたの風」「あしたの樹」「はなの丘」「はなのいえ」代表)による発言を受け、湯浅氏を交えすめられました。両発言からは、相手と深い関わりを継続し、その人を理解していると思っても、本人の本当の考えは計り知り得ないこと、また、考えや気持ちの表現方法は皆同じでないことなどを教えていただきました。新たな気づきが得られた、大変奥の深い研修会が共有できました。

なお、内容の詳細は、2018年3月末発行の「食生態学—実践と研究 Vol.11」でご紹介いたします。

高橋千恵子(フォーラム理事)

## ●シンポジスト・里見英則氏から(指談)

### 寄り添った支援とは、“愛”

今日は僕にとって、感謝する1日になりました。

今日は、湯浅誠先生のお話を聞くことができました。感動しています。僕たちの悩みがわかるのかどうかわかりませんが、僕たちの悩んでいることを、解決する方法を教えてくださいました。

この方法を広めるためには、僕たちの当たり前を伝えるのではなく、たくさんの人の感じるスポットをたくさん見つけ出していくことが必要だということ。支援者と当事者が支援したりされたり、お互いが交互に支援する関係を作り出すこと。つい相手のせいにしてしまうけど、自分の方に変えられる点があるかもしれないと、工夫していく、試行錯誤していくこと。そんなことを教えてもらいました。

僕は湯浅誠先生のお話に感動してしまい、自分の番になると何を伝えようとしていたのか忘れてしまい、思っていたことの半分も言えませんでした。

僕はみんなの前で話をすることができて、すごく嬉しかったです。僕の話すことを信じられない人もいたと思うけど、それでも僕たちの話を聞いて答えてくれた人や、僕に直接話しかけてくれた人がたくさんいたのが、すごく嬉しかったです。

僕たちを無視する人が多いのですが、そんなことがないシンポジウムでした。愛のある人が多いのだと思いました。

僕はこれから湯浅先生のように、面白くお話しができるように練習したいと思いました。



指談で発言する里見英則氏（中央）。左は、もう1人のシンポジスト平岩扶巳代氏。

僕たちのことをたくさんの人に紹介していただき、足立己幸先生ありがとうございました。

僕たちのことをみんなが心配してくれたり、優しくしてくださり、ありがとうございました。

とてもいい1日になりました。僕にとって、たぶん一生忘れない日になると思います。感謝しています。

（通訳支援：里見見千子）

### ●参加者の感想

最初、何が起きているか理解できませんでした。しかし、里見さんの心の言葉を介助者の方が代読していることを知って、正直大変驚きました。意思とは反対の動きをしてしまい、そのことで周りの人には「食べたくない」と誤解を与えてしまうこと等は、障がい者施設で働いているスタッフの多くは知らないことだと思いますし、私もその1人でした。心の言葉を理解しようとするのが、里見さんや里見さんと同じ思いをされている方の自信につながるということを知り、もっと私のように知らない人に知ってもらいたいと強く感じました。これからも、どうかこのような活動を続けてください。応援しています。

阿南真未（神奈川県立保健福祉大学前期博士課程栄養領域）

まず、湯浅先生の話聞いて、人との関わり方について改めて考えさせられました。「場をデザインする」という言葉が非常に印象に残っています。常に自分を正当化するのではなく、自分の行動を見つめ直し、人との関係性がよりよくなるよう努力し、行動を変えていくことが大事なのだと感じました。

私たちは、卒業研究で「子ども食堂」に携わらせていただいているのですが、子どもたちと信頼関係を築くためにはどうすればよいのか悩んでいました。しかし、湯浅先生の話聞いて、失敗してでもいいから、どんどん行動してみようと思いました。失敗したら、話題や話の聞き返し方や返答の仕方が悪かったのか、遊び方をどんな風に工夫すればよいかなど、自分の行動を見つめ直して、改善できるようにしていきたいと思いました。

里見英則さんのお話を聞いて、初めて指談というものの存在

を知り、重度重複障がいの方が何を考えているのかに触れました。私が生活をしている中で障がい者の方とお話をする機会はめったになく、そもそもどのように意見を伝えているのか、考えがあるのかということさえ不思議に思っていました。今回、お話を聞いて、自分がどれだけ傲慢な生き方をしていたのか知りました。

管理栄養士を目指す身として、人々の栄養状態をよりよくしていくことを目標に勉学に励んできましたが、健常者の方には気持ちを理解しようと努めるのに対して、障がい者の方にはこちら側の知識を押しつけていたことに気がつき、恥ずかしいと感じました。

すべてのお話を通して、貴重な経験をさせていただきました。今回、私たちが感じたことを、これから管理栄養士として働くうえで心に留めて行動していきたいと思います。研修会に参加させていただきありがとうございました。

吉田奈央、松本麻花（女子栄養大学実践栄養学科4年）

### ●会費納入のお願い

2017年度年会費をまだご納入いただいていない方は、下記口座まで、お振込をお願いいたします。[振込先]三菱東京UFJ銀行・高田馬場支店（普）1517770 または、ゆうちょ銀行〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）（当座）0702760 名義はどちらも、特定非営利活動法人食生態学実践フォーラム理事長足立己幸 です。

### ●事務局開室日のお知らせ

今年度の開室日も、原則として火曜日と金曜日となっております。開室時間は10:00～17:00です。不在の場合は、留守番電話にメッセージをお残しいただくか、ホームページの「お問い合わせ」からメールでご連絡ください。

### ●「3・1・2 弁当箱法」弁当箱の会員価格改定について

食生態学実践フォーラム・ホームページの教材・刊行物のご案内にて、「3・1・2 弁当箱法」弁当箱の販売を行っておりますが、諸般の事情により、500ml 1350円、600ml 1450円、700ml 1530円、900ml 1800円と会員価格を改定させていただきました。5000円以上お買い上げの場合は、送料無料。

### ●第34回 食育セミナーのお知らせ

日時：8月9日（水）・10日（木）

会場：社会福祉法人健友会 みなみかぜ 地域交流センター・研修センター

テーマ：子どもの食からの自立を支える食育セミナー「ぴったりに食事づくりにチャレンジ」

詳細は、同封のチラシをご覧ください。